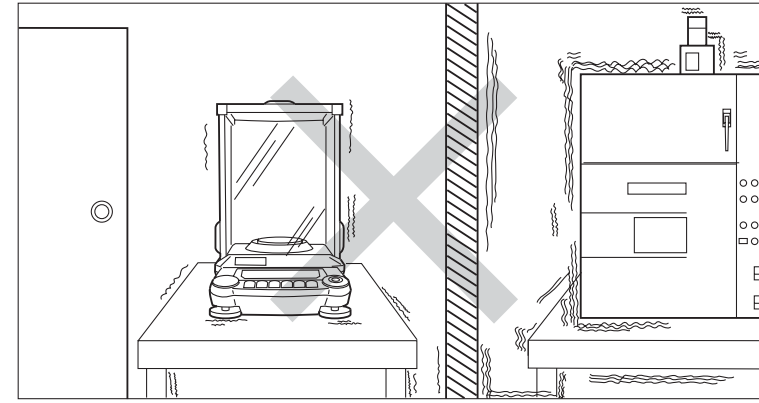


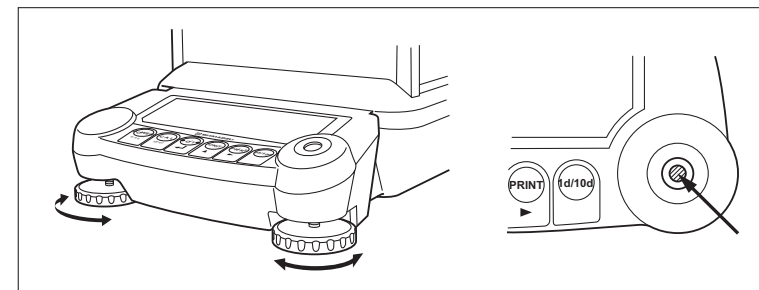
正しい測定結果を得るために

特に A UW120D, A UW220D の小レンジ, 0.01mg での測定には大切なお知らせです
取扱説明書も必ずお読みください

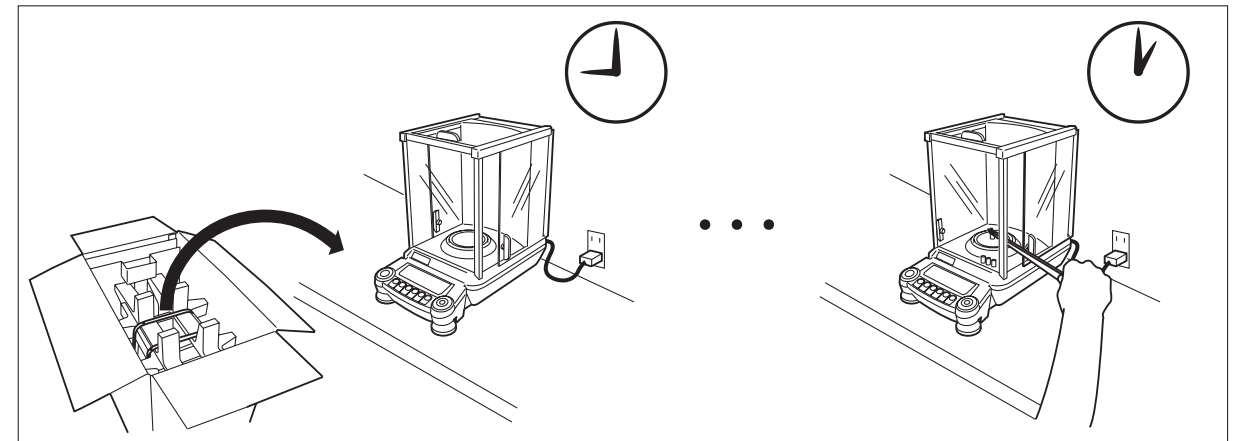
A UW-D/A UW/A UX/A UY シリーズは、セミマイクロ天びん、分析天びんクラスとして非常に高い応答性能、安定性能を有していますが、設置環境と測定方法には注意が必要です。特にセミマイクロレンジ (A UW220D, A UW120D の小レンジ: 読み取り限度 0.01mg) では、より感度が高い分、安定した測定結果を得るためには細心の注意が必要となります。この説明書にしたがって正しく使用し、島津天びんの性能を最大限活用してください。



付近に振動を生じる装置のある場所での使用は避けてください。このような場所では、測定が不安定になる可能性があります。なお、一般に同じ部屋でも中央ではなく隅の方に設置するほうが安定します。安定した位置で堅牢な台にすえつけてください。



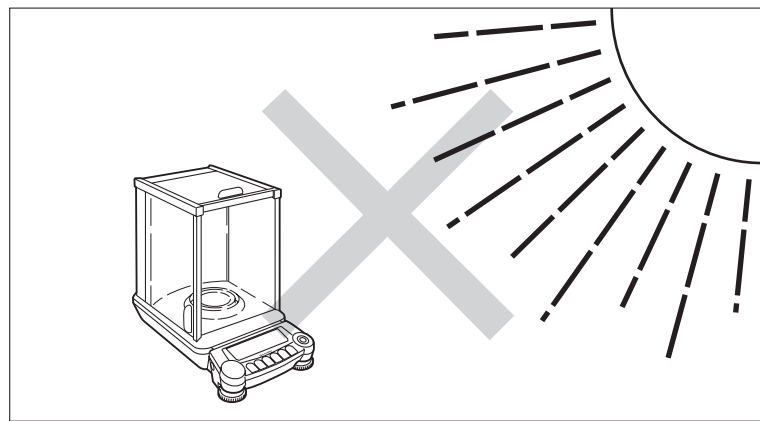
水平調整は必ず行ってください。天びんが傾いていると正確な測定ができません。



すえつけ後、使用前には十分な暖機をしてください。読み取り限度 0.1mg の機種で 1 時間以上、A UW-D のセミマイクロレンジ (読み取り 0.01mg の小レンジ) を使用するときには 4 時間以上が目安です。すえつけ、通电後、天びんが安定するまでには時間がかかります。必要な時間は、室温や天びんの温度によって異なります。開梱前の天びんの温度が室温と大きく異なれば、安定した測定が可能になるまでの時間は長くなり、温度が近ければ短くなります。

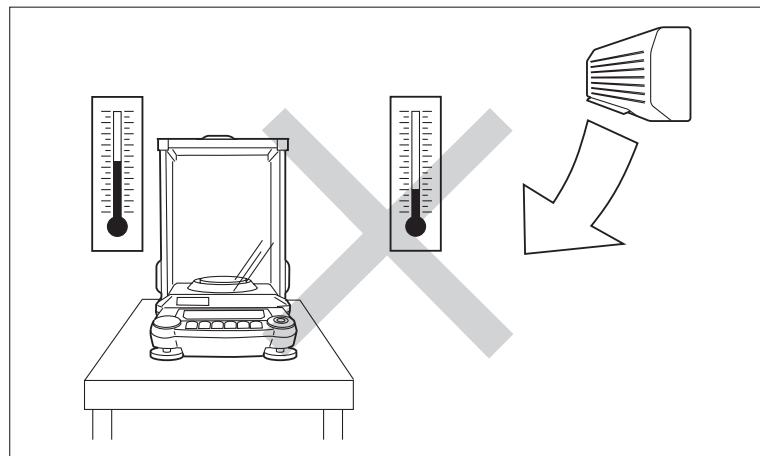
●移動したとき…再び暖機をしてから測定してください。特にセミマイクロレンジでの測定の場合、一時的に電源を切り室内を移動した場合も、再び安定した測定が可能になるまでには時間が必要です。

<すえつけ時の注意>



直射日光の当たらない場所に設置してください。

直射日光が当たるとひょう量室の温度が上がり測定時に対流が生じる原因になります。

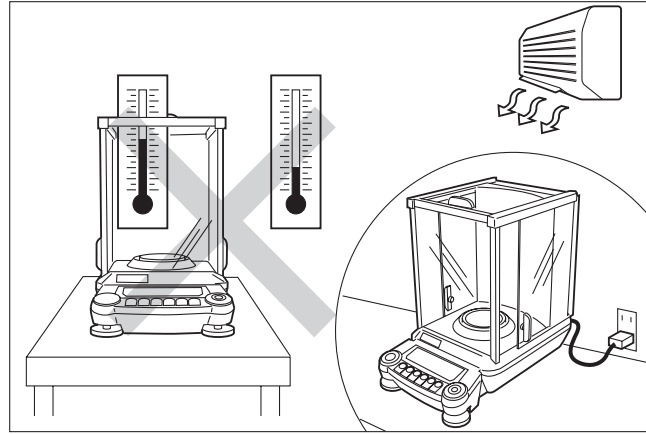


天びんはエアコンの吹き出し口から十分離してください。

エアコンからの気流の温度は室温と大きく異なります。気流、温度差ともに測定を不安定にします。

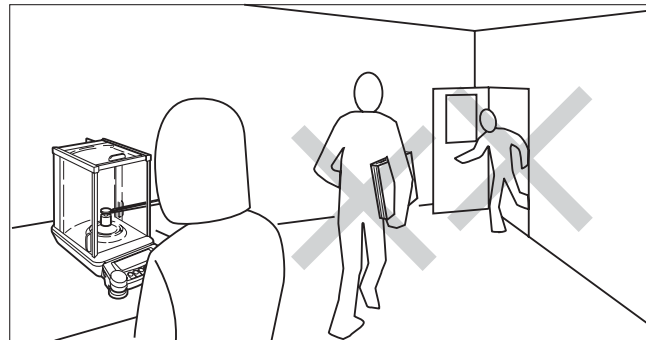
正しい測定結果を得るために

<測定するとき>

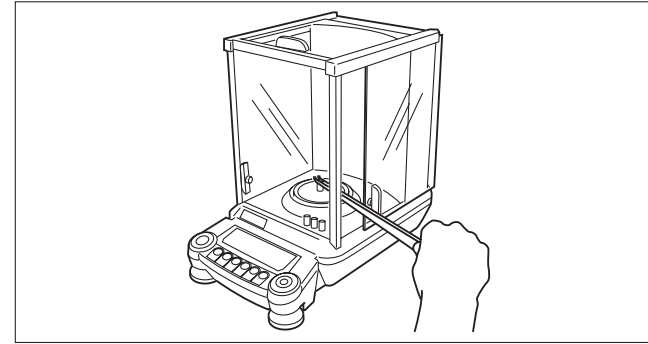


測定前、測定中に部屋のエアコン電源のオンオフは行わないでください。特にセミマイクロレンジでは、エアコンの気流が直接当たらなくても、測定前に室温と天びんひょう量室内の温度に差が生じていると、測定のためドアを開けたときに生じるひょう量室内の対流により、測定が不安定になる可能性があります。設置場所の室温が変わると、天びん内部の温度変化は室温よりも遅れるため、温度差のある状態が長く続きます。

なお、使用しないときはひょう量室のガラス扉を少し開けておくと温度差が生じるのを防ぐ効果があります。天びんの電源はつないでおいてください。

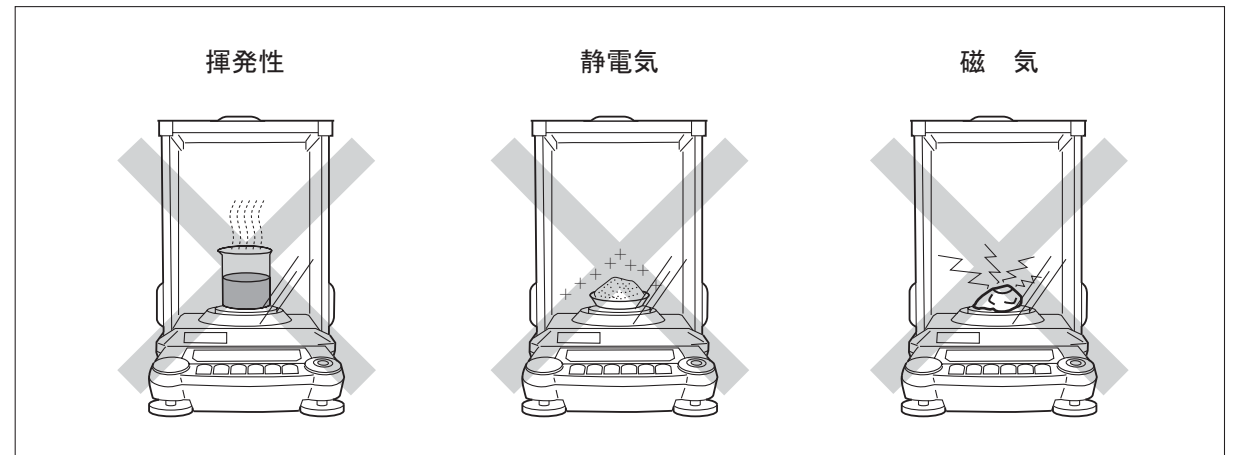


測定中、周囲に人の動きがないようにしてください。特にセミマイクロレンジでは室内に人の動きや部屋のドアの開閉があると、測定を不安定にする可能性があります。



できるだけ長いピンセットなどを用いて試料を扱ってください。測定時にひょう量室に手を差し入れると、人体の熱により対流が生じて測定を不安定にすることがあります。

試料をあらかじめひょう量室内に置いておき温度差をなくしてから測定してください。試料とひょう量室に温度差がある場合にも測定時に対流が生じて測定を不安定にする可能性があります。



試料自体が測定誤差や不安定の要因を持つ場合はそれぞれ対策を取ってください。

揮発性のある試料、吸湿性のある試料、静電気または磁気を帯びた試料などは、正しく測定できません。容器にふたをかぶせる、シールドする、静電気を除去して測定するなどの対策が必要です。磁気を帯びた試料は、消磁する、天びんの皿より試料を持ち上げて天びん機械部から離す、などの対策が必要です。